記者発表会・内覧会

一般公開に先駆けて報道関係の皆さまのみの発表会および内見会を行います。

7月2日(木) 午前11時30分～午後1時（受付開始 午前11時30分）

記者発表　午前11時50分～午後0時30分

参加ご希望の方は、下記のメールアドレスまたはFAXよりご所属・お名前・参加人数をご記入の上、ご連絡ください。

報道関係の方のお問い合わせ先：国立工芸館 広報事務局（株式会社OHANA内）
Tel：03-6869-7881　Fax：03-6869-7801　E-mail：ncm@ohanapr.co.jp

こどもとおとなの自由研究

もようわくわく²

Independent Study for Kids & Adults: Patterns of Delight 2

人間国宝からポケモン×江戸小紋まで 賞(め)でて親しむ日本の心

“もよう”はなぜ存在するのでしょう。
「シンプルイズベスト」とか「ないほうがモダン」などといわれても、もようは決してなくなりません。目と心を捉えてやまない何かがもようにはあります。
もように日本的な美意識が見られるようになったのは唐風から和様に転じた平安期以降といわれています。そこから今にいたるまで、もようの世界は百花繚乱。丸や菱形に動植物の姿かたちを素敵におさめたかと思えば、降りしきる雨や雪、ゆらめきのぼる蒸気をもようフィルターにかけて眺めたり。花鳥風月に身の回りの品々、化学変化の跡だって、もようとならないものはただのひとつもない。そのどれにも、いつか・誰かの「好き」や「いいね」が宿り、そんなわくわく気分が、もように目を留めた私たちの元にも届けられているようです。
本展は工芸ビギナーから愛好家まで満喫できる近・現代工芸の名品約 140 点で構成。1974 年『紋文帖(もんもんちょう)』の裏表紙でこっそり「悶々」いいながら、生涯をこの仕事に捧げたもよう作りの天才・芹沢銈介(せりざわけいすけ)の特集展示も同時開催。小さな下絵から代表作の屏風まで、どのフェーズも見逃せない約 20 点を展観します。

会期中一部展示替えをいたします。（前期：7月3日～8月16日／後期：8月18日～9月23日）

1 高野松山《群蝶木地蒔絵手箱》（部分）1963年
国立工芸館蔵　撮影：斎城卓

展示室 1 いき・もの

～もようが紡ぐ日々のかがやき

生きとし生けるものへの慈しみは、もよう世界を豊かに彩ります。この部屋ではもようのモチーフ、とくに自然から得たイメージに注目します。もようとして囲み取って賞翫(しょうがん)する習慣の奥には、自然物の生命の輝きを身の回りの品々に写し取り、長寿や富貴、美しさなどさまざまな願いが託されてきました。皆さんの記憶に残るもようにも、誰かの想いがこもっていたかもしれません。

#Life #伝統　#想いの深さにグッとくる

2

3

4

5

2 北村武資《経錦帯「春苑」》（部分）2012年　国立工芸館蔵　撮影：斎城卓
3 森口華弘《訪問着　薫秋》（部分）1964年　国立工芸館蔵　撮影：斎城卓
4 松田権六《蒔絵螺鈿有職文筥》1960年　国立工芸館蔵　撮影：斎城卓
5 初代宮川香山《色入菖蒲図花瓶》1897-1912年頃　国立工芸館蔵　撮影：斎城卓

展示室 2 いっこ・いっぱい

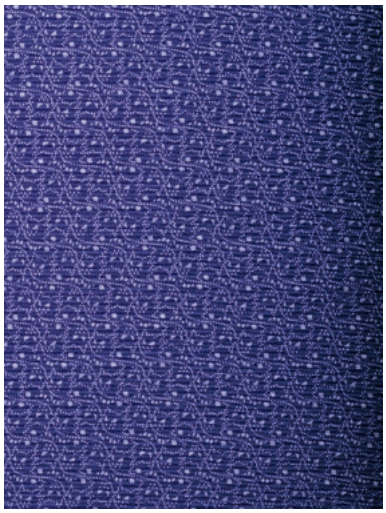
～構成力でもようの魅力を拡張する

工芸のフォルムは機能を適えるために実に多種多彩。そのなかでもようの“数”を定めた作家の視点に迫ります。手前があれば向こうもある白い壺。そこで魚がただ1尾、悠々と泳ぐ余情に浸り、他方では繰り返しパターンが呼び起こすリズムの効果も捨てがたい。もしも、もようの数を変えるならば……。そんな風に想像すると作品の見えかたも広がりそうです。

#デザインのカ　#どっちが好き？　#最適解に挑戦する？

6

7



8

6 石黒宗麿《白地黒絵魚文扁壺》
1940-41年頃　国立工芸館蔵
撮影：斎城卓
7 稲垣稔次郎《木綿地型絵染壁掛　虎》（3点組の１）　1960年　国立工芸館蔵
〔前期展示〕
8 小宮康義《江戸小紋 着尺「ゲンガー・ゴースト」》（部分）
2022年　撮影：斎城卓

©2026 Pokémon. ©1995-2026 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.
ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリーチャーズ・ゲームフリークの登録商標です。

本展の楽しみかた

あなたの「スキ」とであう夏

暑い夏の日、涼しい室内でひととき美しきものを眺めては、ふわっとまったりもようの世界に浸るのもヨシ。
シール帳にお気に入りを集めるみたいにもようの写真を撮って、家族や友だちと見せ合ったり、ひとりうっとり眺めるのもアリ。
もようにこめた意味や歴史や素材技法を知りたくなったら多言語テキスト&音声ガイドで鑑賞を深めましょう。
スマホやタブレットでご利用いただけます。音声ガイドを試したい方はイヤホンをお忘れなく。

「おかえりなさい」と「はじめまして」のポケモン×工芸

2023年に国立工芸館で開催した「ポケモン×工芸展ー美とわざの大発見ー」。
なかでも幅広い年齢層から「好き」を寄せられた〈ポケモン×江戸小紋〉が、旅（巡回展）の途中で生まれた仲間といっしょに登場します。
あの作品をもう一度金沢で見たかった方、その後の“新作”のウワサが気になっていた方、今回の2点どちらも必見です。

たんけんキットで遊びながら気づきと学びを誘いだす

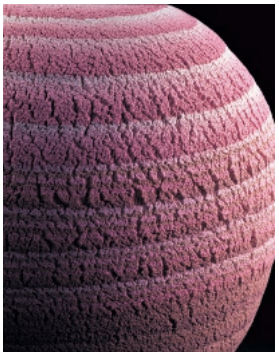
昨夏ご好評いただいたステキな写真と見どころヒント満載のワークブックを今年も作りました。
集中を促す「ジロメガネ」とあわせて会場をめぐり、納得の印を付属のシールで可視化します。対象は中学生以下、無料です！
こどもたちの鑑賞の成果は、絵とキーワードでイチオシ作品を紹介する「ずかんカード」（ワークシート）で大公開。
カードにほとばしる熱意と鋭い眼差しは、おとなの鑑賞意欲を奮い立たせるほど…。
夜間開館時はおとなの方も“たんけん”一式をご体験いただけます（無くなり次第終了）。

展示室3 きっちり・どっきり

～もようを生み出すわざに震える

工芸といえば匠のわざ。作者の素材技法への深い理解とパッションがこのジャンルを際立たせ、こどもたちにも「カッコイイ！」といわせる魅力を放ちます。緻密な計算に基づく挑戦は、ときに破綻ギリギリとも見える大胆さを導きますが、優れた作品ほど両者を行き来するもの。優美なもようのなかでも起きている“事件”の数々。これは見逃せません。

#物理とか化学とか　#ともかくすごい　#カッコイイ



9

10

9 松井康成《練上嚊裂文茜手大壺》（部分）
1981年　国立工芸館蔵　撮影：斎城卓
10 志村ふくみ《紬織着物　鈴虫》1959年
国立工芸館蔵　撮影：米田太三郎
〔後期展示〕
11 関谷四郎《赤銅銀接合皿》1972年
国立工芸館蔵　撮影：斎城卓

11

ほかにもイロイロ くつろぎタイムや帰り道にも

～五感で広がるもようワールド

12 黒田辰秋《欅拭漆彫花文長椅子》（部分）1949年頃　国立工芸館蔵
撮影：斎城卓

ラウンジの設えには人間国宝・黒田辰秋が手がけた長椅子と、彫刻家イサム・ノグチがライフワークとした AKARI シリーズの照明をご用意しました。寄りかかった背もたれに深く彫り出される花文のぬくもりや、もよう越しに広がるおだやかな陰影は、きっと皆さんの感性を心地よく刺激することでしょう。
展覧会のあとは、ぜひ裏庭にも足を伸ばして、橋本真之による《果樹園―果実の中の木もれ陽、木もれ陽の中の果実》のまわりをそぞろ歩いてみませんか。10 年がかりの大きな大きな金属ボディに大小無数の丸があますところなく穿（うが）たれた迫力のもようワールドは唯一無二。内部の「木もれ陽」もようも要チェックです。

画像No.1～13 を広報用に提供いたします。
ご希望の方は当館ホームページの画像提供システムよりお申し込みください。
https://www.momat.go.jp/craft-museum/reproduction

展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券（5組10枚）をご用意しております。
ご希望の方は、画像申請の「その他」欄よりお知らせください。

13 展覧会チラシ

こどもとおとなの自由研究

もようわくわく²

Independent Study for Kids & Adults: Patterns of Delight 2

7月3日(金) ～ 9月23日(水・祝)

会期中一部展示替えあり〔前期：7月3日～8月16日／後期：8月18日～9月23日〕

会　　場：国立工芸館（石川県金沢市出羽町3-2）
開館時間：午前9時30分～午後5時30分（入館は閉館の30分前まで）
夜間開館：7月17日(金)～8月15日(土)の金・土曜日は午後8時まで（入館は閉館の30分前まで）
休 館 日：月曜日（ただし7月20日、9月21日は開館）、7月21日
主　　催：国立工芸館、北國新聞社
後　　援：MRO北陸放送、テレビ金沢
観 覧 料：一般 1,000円(900円)／大学生 700円(600円)

＊（ ）内は20名以上の団体料金および割引料金。
＊いずれも消費税込。
＊高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方と付添者(1名)は無料。
　それぞれ入館の際、学生証等の年齢のわかるもの、障害者手帳等をご提示ください。
＊MOMAT支援サークルパートナー企業(同伴者1名まで、シルバーパートナーは本人のみ)は無料。
＊外国人を引率し通訳案内のために同行する通訳案内士は無料。
＊文化の森おでかけパスをお持ちの方は割引料金。
＊石川県立美術館、金沢21世紀美術館、石川県立歴史博物館、石川県立伝統産業工芸館(いしかわ生活工芸ミュージアム)、
＊金沢市立中村記念美術館の主催展覧会入場券半券を窓口で提示した方は割引料金。
＊北陸鉄道株式会社(北陸鉄道バス)「金沢市内1日フリー乗車券」のご提示で乗車日当日に限り割引料金。

掲載用問い合わせ先：050-5541-8600(ハローダイヤル)

関連イベント

型絵染ワークショップ　7月11日(土)　対象：小学4年生以上／参加費：500円（要「もようわくわく²」展観覧券）

染色家・遠藤あけみさんを講師に迎え、型絵染のエッセンスが香るグリーティングカード制作に挑戦します。デザイン・型彫・染めの各プロセスが作品への眼差しを深め、豊かな鑑賞体験を導きます。定員30名（事前申込）。

主催：兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会

映写機で知る工芸の世界　8月14日(金)・15日(土)　対象：どなたでも／無料（要当日観覧券）

国立工芸館夏の夜間開館恒例の映画鑑賞会を行います。今回は文化庁の工芸技術記録映画のなかから音丸耕堂、森口華弘、中川清司、志村ふくみの4名の映像をセレクト。人間国宝の素顔に触れ、その卓抜のわざと真摯な姿勢が生み出す美に浸りましょう。今や稀少となったフィルム映写機の味わいを知る絶好のチャンス。全4回、各回定員40名（先着順）。

もようわくわくワークショップ　8月22日(土)・23日(日)　対象：中学生以下のお子さんとそのご家族／無料

タッチ&トークには人間国宝をはじめとする人気作家の作品（ホンモノ!）を揃えました。また夏の思い出にぴったりなお洒落グッズ制作にもチャレンジ。みる・しゃべる・さわる・つくる・帰宅後もつかって楽しむのさまざまなアプローチでもようワールドの美しさと面白さを満喫するプログラムです。各日40名程度（事前申込制）。

イベント詳細・申込方法は当館ホームページをご確認ください。内容や日時は都合により変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

展覧会予告

デザイン・クロニクル展　なにが生まれて、なにが変わった？

10月9日(金)～ 2027年1月11日(月・祝)

デザインは近代化によって生じた課題に対応するための新しいものづくりの考え方です。本展では19世紀後半のアーツ&クラフツ運動から、アール・ヌーヴォーとアール・デコ、バウハウスに代表されるモダニズム・デザイン、そして第二次大戦後の展開までのおよそ100年のデザインの流れを国立工芸館の所蔵品を中心に紹介します。

ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ
《MR10 椅子》1927年　国立工芸館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト

国立工芸館
National Crafts Museum

〒920-0963　石川県金沢市出羽町3-2
お問い合せ　050-5541-8600(ハローダイヤル)
www.momat.go.jp/craft-museum

アクセス

バス	JR金沢駅兼六園口(東口)より 3番乗り場：乗車、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分 6番乗り場：乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩5分 8番乗り場：乗車、「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分
車	北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分 近隣に文化施設共用駐車場(無料)があります